

入試情報

入試日	願書提出	合格発表	内申点計算方法
■特別選抜: 2/22(月)・23(火)	2/15(月)・16(火)	3/1(火)	9教科の評定 各25点(各教科評定×5)⇒225点
■一般選抜: 3/10(木)	3/3(木)～7(月) ※土日を除く	3/18(木)	9教科の評定 各50点(評定×10)⇒450点

教育のプロ
トライさん



傾向

実技・面接を実施する学科である特別入試以外の学校は原則3月実施の一般選抜に一本化され、5教科の「学力検査の成績」と「調査書の評定」で合否を判定します。各学校ごとに配点比率が異なり、「学力検査の成績」と「調査書の評定」の合計を、各校が定める倍率を掛けて総合点を算出します。新制度への経過措置として、平成28年度入試は中3の評定のみが反映されます。

英語・数学・国語の学力考査に関しては、各学校ごとにA問題・B問題・C問題の3タイプの問題が設定されています(理科・社会は共通問題)。

科目別対策

英語

リスニングは記号解答式。あらかじめ図や選択肢を見ておき、何を問われているかをメモをとりながら予測する練習をしておこう。読解問題については、教科書レベルの文法・単語、熟語を整理しておくこと。長文や対話文の読解は、指示語が何を指しているのかを把握すること。毎年、英作文が出題されるが、難しい表現を使おうとせず、簡単な英文で解答する練習をしておこう。

数学

思考力・表現力を問うための出題が多い。教科書レベルの基本問題の習熟から始め、苦手な分野に重点をおいて演習を。記述問題が多く、時間との勝負になるので、計算は正確に速く解く訓練を。証明問題は、定理の内容や図形の基本性質を習熟し、解き方や式を丁寧に書きながら解く習慣をつけておくことが大切。図形問題では、相似な図形を見つけるなど、図形の見方を養うための練習が必要。

国語

漢字の問題では、基礎的なものから間違えやすいものまで幅広く出題。同音異義語や同訓異字を意識して覚えよう。文字数の多い記述問題が出題される傾向にある。説明的文章では筆者の主張・論旨、文学的文章では登場人物の心情変化を50字程度でまとめる練習を。古文では、語句の意味をおさえ、内容を端的に現代語でまとめる練習を。平日頃から新聞などで表現力を養い、作文訓練もしておこう。

理科

各分野全ての問題が偏りなく出題される。1つの大問で様々な単元から出題されるので、苦手な単元は克服しておこう。記述問題では、実験・観察の目的や結果を踏まえた上での的確な表現を求める問題が出題される。計算問題では、公式を暗記するだけではなく、使いこなせるように演習を重ねておこう。説明文が長いので正確に読み取り、解答に必要な情報整理ができるようにしておこう。

社会

地理・歴史・公民を融合した問題が出題される。写真・地形図・グラフなどを読み取り、記述する問題が多いため、様々な資料の読み取りの訓練をしておこう。地理では、国・地域の特色を気候・文化・産業別に整理。歴史では、時代ごとの特色・出来事を様々な観点から捉えること。公民では政治・財政のしくみを正確に理解しておくこと。基本的な用語は意味も書けるようにしておこう。